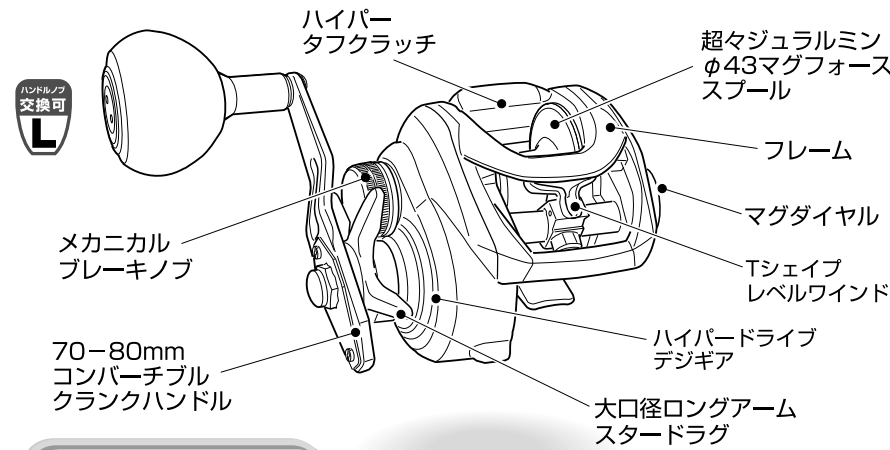


●各部の名称と操作方法

この度は SEAHAWK TW ENTO をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。本製品は、力強く滑らかな回転が持続する設計思想「HYPERDRIVE DESIGN」を採用しています。更にTWSとの相乗効果により、快適なフィッシングを楽しんでいただけます。このリールを正しくご使用頂くために、ご使用になる前にこの説明書をよくお読みください。また、リール同様この説明書も大切に保管していただきますよう、お願い申し上げます。

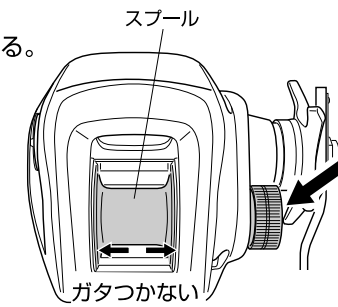


●ブレーキ設定方法

・マグダイヤルの調整で従来よりかなり強いブレーキ力を発揮できるようになっており、大半のルアーはマグダイヤルで制御する事が可能です。メカニカルブレーキを掛けるとスプールレスポンスを損ね、性能を発揮できなくなります。以下が基本的な設定方法です。

●メカニカルブレーキ設定を“ゼロ”にする。

メカニカルブレーキノブを緩めた状態から締め込んでいく中で、ガタついていたスプールがガタつかなくなる所があります。そのピンポイントがメカニカルブレーキ“ゼロ”の状態です。



●ゼロ設定からわずかに緩め、微小なガタつき(0.2mm程度)を感じるところで、ご使用ください。

注意

※ ミクロン単位の精度を追求したスプールを採用しているため“ゼロ”状態より大きく緩み過ぎた設定だと、キャスト時のスピールの振れが大きくなる為にリール本来のブレーキ性能が損なわれ、却ってバックラッシュや飛距離ダウンの原因となります。また、ノブが外れてパーツを紛失する恐れもあります。メカニカルブレーキノブは『緩めるほど飛ぶ』という事ではなく、“ゼロ”設定プラスαの程度がベストです。緩め過ぎは逆効果です。

- ① マグダイヤル目盛りを最大にする。
- ② 慣れるに従って、徐々にマグダイヤルを下げていきます。バックラッシュ気味になるひとつ手前の目盛りが、その時の条件に合った最適なセッティングです。
- ※もちろん、サミングを併用する事で、更にブレーキを落とす事が可能です。
- ※マグダイヤル目盛りが最大でもブレーキ力が足りないと感じたところで初めてメカニカルブレーキを締めて使う事をお勧め致します。

注意

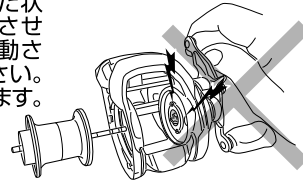
※メカニカルブレーキを締め込みすぎた状態で使い続けると、中のシャフトが焼きつけを起こし、「キーン」という異音が起こるケースがあります。締め込みすぎないよう、ご注意ください。

●取扱い・保管上の注意

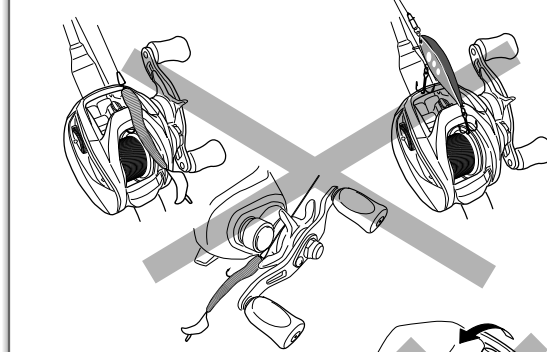
- ・落下などのショックを与える事で異音の発生や、スプールフリー性能が変わることがあります。お取扱いには充分にご注意ください。
- ・保管の際は必ず竿から取り外してください。
- また、なるべく乾燥した冷暗所に保管してください。濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間(自動車のトランク、ダッシュボード等)に長時間放置されますと腐食を起こす可能性があります。
- ・リールを長時間(数ヶ月以上)お使いにならない時は、リール作動部を時々動かす事をお勧め致します。
- ※船べりのロッドホルダー穴へ竿にリールをつけたまま入れる場合は、船べりにリールが直接当たらないか確認してください。当たる場合は、ロッドホルダー穴へ入れることはおやめください。リールを破損するおそれがあります。

●取扱い上の注意!

・スプールを取り外した状態でハンドルを回転させたり、クラッチを作動させたりしないでください。ギアが傷ついてしまいます。

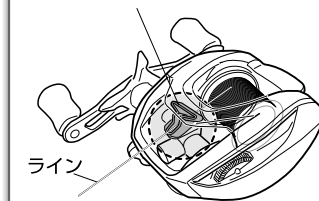


- ・海水でご使用された後は、スプール外周の水分をタオルなどでふき取ってください。乾いた塩分が結晶化すると、スプールやフレームを傷つけてしまう場合があります。
- ・ルアーやワームをリールに引っ掛けるのはお止めください。リールを傷つけたり、ラインが傷ついたり、ワームの成分によってリールの塗装が侵されることがあります。
- ・海水の中に長時間放置をしないでください。
- ・釣り餌が付着した状態で長時間放置をしないでください。



・ラインガイドを手で無理に作動させないでください。破損の恐れがあります。

Tシェイプレベルwind



・Tシェイプレベルwindの狭い部分からラインが外れると、スピールにラインをきれいに巻くことができません。

※スプールに糸を巻く時、バックラッシュをほどく時は、必ずラインが狭い部分を通るようにして行なってください。

- ・リーダー結節部がレベルwindのガイドより外側に出すことをおすすめ致します。
- ・Tレベルwindの狭い部分にリーダー結節部が挟まった場合は、指で外してください。



※そのままクラッチを切ると、破損の恐れがあります。

・根掛かりした時に、スピールを指で押さえてラインを切る事はおやめください。スピール変形の原因になります。必ず手でラインを持って根掛かりを外すようにしてください。



HYPERDRIVE DESIGN

SEAHAWK TW ENTO

取扱説明書

●安全上の注意



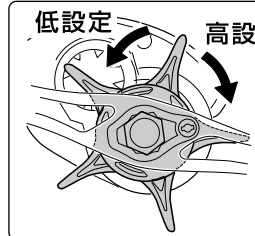
- ①糸をリードするレベルwindの所に指を近づけて釣りをしないでください。怪我をする恐れがあります。
- ②糸が勢いよく出ている時は、糸に触れないでください。糸で指を切る恐れがあります。
- ③幼児の手の届く所には置かないでください。予期せぬ事故や怪我につながる恐れがあります。
- ④薄肉スピールの為、濡れた手でスプールエッジを触る時などは、指を切らないようご注意ください。

●安全上・ご使用上の注意



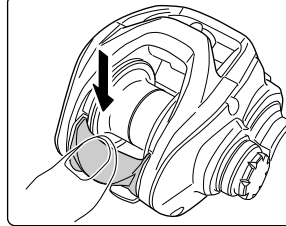
- ①キャストの時はクラッチを切るのを忘れないでください。仕掛けが出行かず、怪我をする恐れがあります。
- ②根掛かりした時は、無理に竿をおろさず糸を手にとって切るようにしてください。竿をおろすと、竿折れの原因になります。(その際は、手袋やタオルで手を保護してください。)
- ③ハンドルとボディの間に指をはさまないように注意してください。指をはさまれて怪我をする恐れがあります。
- ④糸が勢いよく出ている時は、スピールの上に指を置かないようご注意ください。ヤケドや、指をはさんで怪我の原因になる恐れがあります。
- ⑤リールのワンウェイクラッチ部に注油しないでください。ハンドルが逆転し、手にあたり怪我をする恐れがあります。
- ⑥ドラッグを長時間連続使用すると、ドラッグ収納部が熱くなり、ヤケドをする恐れがあります。
- ⑦ドラッグ付きリールで遠投する際には、ドラッグが滑ると糸で指を傷つける恐れがあります。必ずドラッグをよく締め付けてから投げてください。
- ⑧リールを長時間収納するときは、水分を完全に切り、なるべく通気性のよい場所に保管してください。
- ⑨ドラッグ付きリールは、釣行後にドラッグを緩めて保管してください。(ラインがロックした状態等で、ドラッグをキック締めたまま保管すると、ドラッグワッシャーが濡れ、ドラッグ性能が低下する事があります。)
- ⑩使用糸の径の大小、糸巻き時の力の变化、作動クリアランスなどにより、表示巻き糸量、糸巻き状態に差異が生じることがあります。
- ⑪落下などの強いショックがかかると、破損する場合がありますので、お取り扱いにはご注意ください。
- ⑫本製品は釣具として開発されていますので、釣り以外の用途で使用しないでください。
- ⑬リールの回転部にはグリスや油が付いてますので、服を汚さないようご注意ください。
- ⑭クラッチを押し込んだまま、ハンドルを回さないでください。(ラインがロックした状態等で、クラッチを押し込んだままハンドルを回すと、クラッチ及びストッパー、ギア等の破損につながります。)
- ⑮ルアーやワームをリールに引っ掛けるのはお止めください。リールを傷つけたり、塗装がはがれたりすることがあります。
- ⑯シンナー、ベンジン、アルコール、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類などの有機溶剤は、本機の表面が変質したり塗装がはがれたりすることがあるので、ご使用にならないでください。また、上記が手についたまま本機を扱うこともお止めください。
- ⑰弊社純正部品以外の取り付けによる不具合は保障できません。また、弊社純正部品以外の部品が取り付けられたままでの修理は場合によってはお断りさせていただきますのであらかじめご了承ください。
- ⑱本製品は十分な強度基準で設計・製造されていますが、実釣時に想定以上の極端な負荷がかかるケースでは破損する恐れがあります。
- ⑲製品改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

●ドラッグ調整方法



●時計回りに回せばドラッグ設定は高くなり、逆時計回りに回せばドラッグ設定は低くなります。(使用ライン、釣種に合わせて調整を行ってください。)

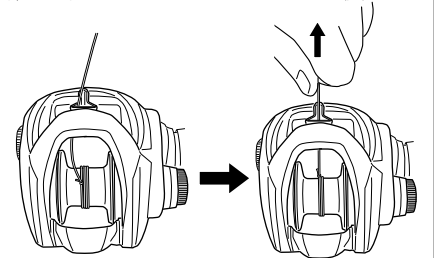
●ハイパータフクラッチ



●親指で軽く下に押すだけで、クラッチが切れ、スプールはフリーの状態になります。親指でクラッチとスプールを同時に押さえることができるので、すばやくキャストできます。

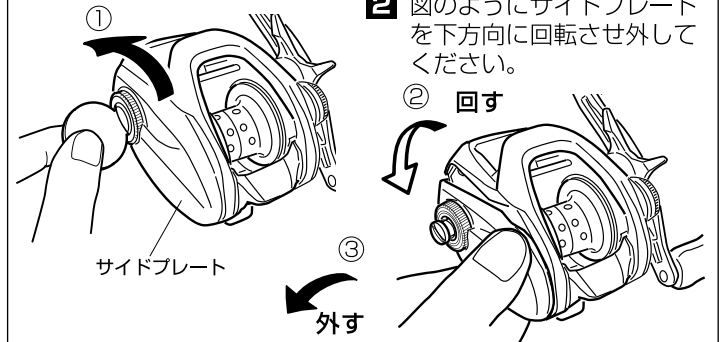
●スプールにPEラインを巻きはじめの結び方

●PEライン使用に際しては、糸がスプールから空転するのを防止する為、3回から5回程、糸をスプールに巻きつけた後、しっかりと結び付けてください。また、結び付けた後、強く引っ張っても糸がスプールから空転しないことを確認した後、糸巻きを開始してください。



●スピールの交換方法

1 サイドプレート上のマグフォース調整ダイヤルの中心にあるビスを逆時計回りに回し、ゆるめます。(ビスは脱落防止のため、完全にはぬけないようになっています。)



「パーツ情報 確認方法」



パーツ情報については【ダイワパーツ検索システム】よりご確認ください

QRコードまたは検索 ダイワパーツ検索システム

●アフターサービスについて

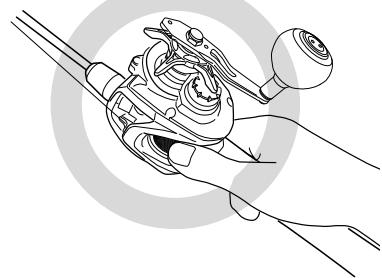
本製品は当社の厳重な検査を経て出荷されたものですが、万が一、故障が生じ修理が必要な場合はお問い合わせの販売店、または右記のお客様センターまでお問い合わせください。なお、修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。

お客様センター(無料) 携帯電話からもご利用できます
TEL 0120-506-204 【受付時間】9:00~17:00 (土・日・祝祭日は除く)
ホームページ上からも確認、お問い合わせできます
www.daiwa.com/jp/
グローブライド株式会社
〒203-8511 東京都東久留米市沢3-14-16

●キャスト時の注意

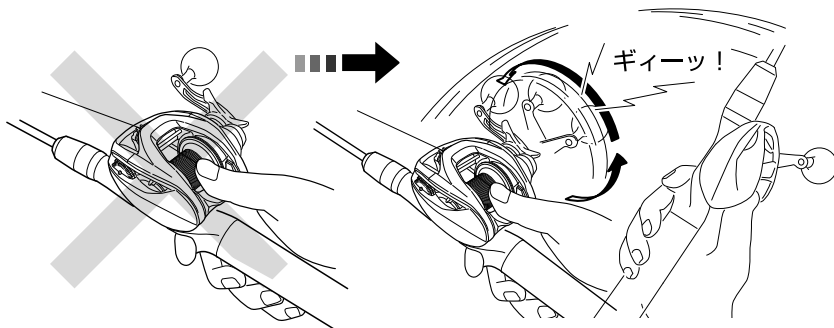
＜正しい握り方＞

ハンドルを上向き（もしくは下向き）にし、ノブは図のように自分側となるようにして握ります。



＜誤った握り方＞

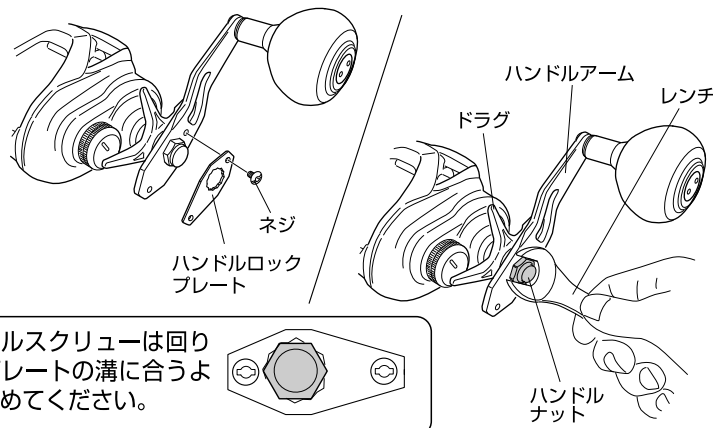
ハンドルを横向き、ノブを竿先側にしてしまうと・・・



- ※キャストの衝撃でハンドルが回転し、クラッチが返ってしまいます。車でいえば、クラッチを切らずにギアをつなぐ様なもの。最悪ギアの破損の恐れもあります。絶対にお避けください。
- ※また、キャスト中にクラッチを戻さないでください。ルアーが着水してから戻さないと、ギアやボールベアリング等の破損につながる恐れがあります。
- ※標準装備のハンドルより長いハンドルや、重い（大きい）ハンドルノブを取り付けると、キャスト時のクラッチ返りが起こりやすくなりますのでご注意ください。
- ※キャスト時のクラッチ返りを避けるため、親指でクラッチレバーを押したままキャストしてください。

●ハンドル交換方法

- 市販のドライバー（※）でネジを緩め（反時計回り）、ハンドルロックプレートを外します。
- ドラッグを締め込み、市販のレンチ（※）を使い、反時計回りでハンドルナットを外します。
（※）ダイワRCSベイトキャストグリール純正オプションハンドルには、ドライバーとレンチを兼ねた取外し用の工具が入っております。
- ハンドルを外し、交換してください。
- レンチを使い、ハンドルナットを取付けます。強めに時計回りに締めてください。
- ハンドルロックプレートを取付け、ドライバーでネジを締めて（時計回り）ください。

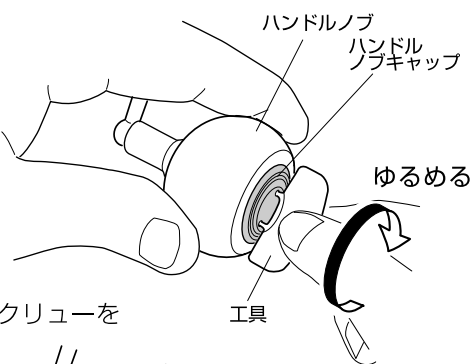


※ハンドルスクリューは回り止めプレートの溝に合うように締めてください。

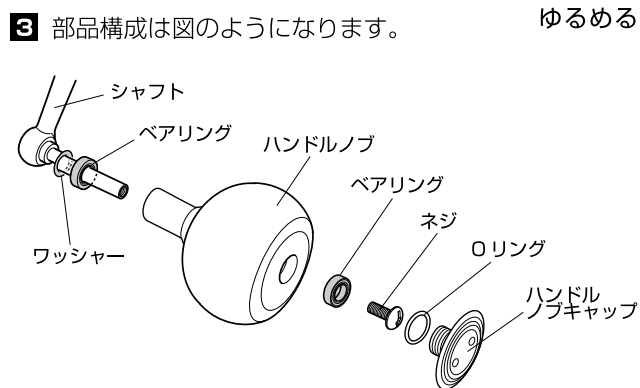
●ハンドルノブ取外し方法

※Lサイズノブと互換性があります。

- ハンドルノブを手で押えながら工具でハンドルノブキャップをゆるめて外します。
※ネジは逆ネジになっていますので、ご注意ください。また、ハンドルノブキャップに工具をしっかりかみ合わせて回さないと、ハンドルノブキャップが傷付いてしまいますのでご注意ください。



- ドライバーでノブ内部のスクリューをゆるめて外します。
※スクリューには、ゆるみ止め防止剤が付いていて、ゆるみにくくなっています。ネジ山を傷めないようにご注意ください。クリューをゆるめて外します。



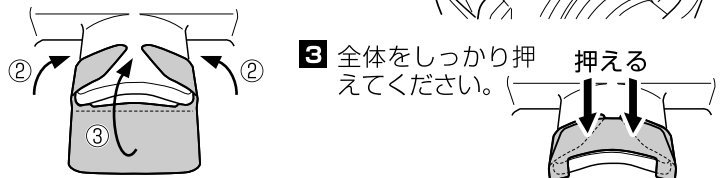
※図中の工具は別売です。釣具店にご用命ください。
（部品コード：199585）
（部品名：ドライバー/ミリオネアCVハンドル用）
※RCSベイトキャストグリール純正オプションハンドルノブには、図中の工具が入っております。

※ハンドルノブのガタが大きい場合は、ダイワ純正RCSオプションハンドルノブに付属しているワッシャーを図Aの位置に追加してください。（追加する場合、ワッシャーを入れすぎるとハンドルノブが回転しなくなるのでご注意ください。）

●リール脚保護シートの使用方法

リール・ロッドへの傷付き防止及びリールシートとのがたつき防止としてお使いください。

- 図のように位置を合わせ、リール脚保護シートを貼付けます。
- 図のように、両側の部分を包み込むようにして貼り②、次に先端部を巻き込み③貼付けます。



●重要！お手入れ方法

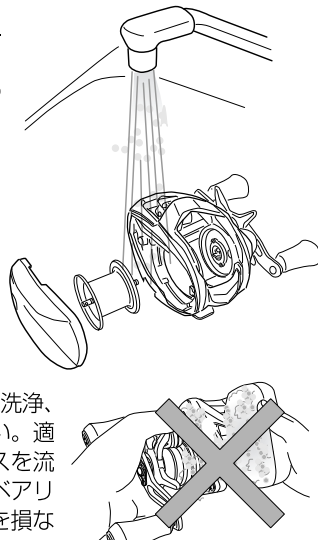


※特に海水でリールを使用した場合、錆や塩分の固着によるトラブルを防止する為にも、以下の要領で、釣行後必ずメンテナンスを行なっていただくことが重要です。但し、ボールベアリングやギア等は消耗品であり、長期間のご使用により、初期性能は低下する可能性があります。
※本リールを未永くお使い頂くためにも、年に1度は（株）スポーツライフプラネットにオーバーホールに出されることをお勧めします（有料）。

- 推奨オイル：ダイワ純正リールガードオイル REV ボールベアリング用オイル
- 推奨グリス：ダイワ純正リールガードグリス
- ※市販の防錆潤滑剤等のご使用は結果的にボールベアリング・グリス等の耐久性を損なう恐れがありますのでおやめください。

＜順序＞

- ①使用後は、なるべく早く水洗いしてください。摺動部や回転部に残った塩分や汚れを洗い流すためです。
※特に海水域で使用したまま乾燥すると塩が結晶化してしまい、水洗いの効果が低下します。
ドラッグを締め込んでからサイドプレートを外し、サイドプレート、スプール、本体の3パーツに分け、シャワー等の真水で最低3分程度かけて、各パーツを水洗いしてください。
サイドプレート、スプール、本体いずれも、様々な角度から水を掛け流してください。内部に残った海水や塩の結晶を溶かして洗い流すイメージです。
クラッチは、オン⇄オフを繰り返しながらよく水を掛け流してください。ハンドルやハンドルノブも回しながら水を掛け流してください。
- ②温水による洗浄やリールを水没させての洗浄、洗剤等での洗浄は絶対におやめください。適材適所で使い分けしているオイルやグリスを流出させてしまいます。結果的にボールベアリング、ギアなど重要回転部品の耐久性を損ないますので絶対にお止めください。

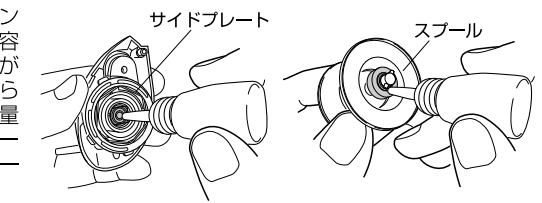


- ・本体のウォームシャフトやレベルwind、ダイヤルが汚れている場合は、綿棒などで汚れを取り除いてください。
- ②洗浄後は、3パーツを組立てよく水を切って乾燥させてください。
・よく水を切るために、ハンドルやクラッチ、スプール等の作動部を動かしながら行うと効果的です。
- ・海水で使用された後は、スプール外周部やフレーム内部などの水分をタオルなどでふき取ってください。乾いて塩分が結晶化すると、スプールやフレームを傷つけてしまう場合があります。
- ・ドラッグを緩め、水抜き穴を下にして陰干ししてください。また、直射日光を避けてなるべく通風性の良い場所で乾燥させてください。
- ※濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間（自動車のトランク、ダッシュボード等）に長時間放置されますと腐食を起こす可能性があります。
- ・内部の水分が完全に乾燥するまでは5日ほどかかります。乾燥中は、出来れば1日1回程度、ハンドルやクラッチ、スプールなど作動部を動かしてください。
- ※溶剤（シンナーなど）では手入れしないでください。
- ③以下の注油規定に則り、必ず注油してください。
- ④保管の際は、ドラッグを緩めてください。

■注油規定 ⚠ ※注油規定以外の注油をされるとリール本体に不具合が発生することがあります。

【スプール部ボールベアリングへの注油（オイル）】

- 1 サイドプレートを取り外し、裏側の中心にあるボールベアリングへ注油します。
- 2 スプールを取り外し、シャフトに付着しているボールベアリングにも注油します。
※つけすぎは逆にボールベアリングの本来の回転性能を損なう恐れがあります。
例えばボールベアリング用オイルの場合、容器を押して、オイルが表面張力でノズルから盛り上がる程度の分量が適正です。スプレーオイルの場合も軽く一吹き程度で結構です。

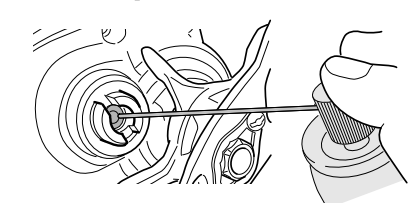


【ピニオンギアへの注油（グリス）】

- 1 メカニカルブレーキノブを外し、クラッチをOFFにしてピニオン外側面に注油します。（極少量、スプレーグリスの場合軽く一吹き程度で結構です）

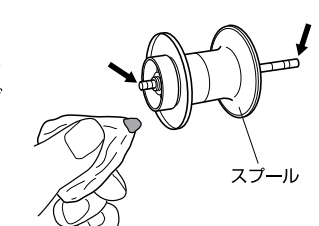
【ピニオンギア部ボールベアリングへの注油（グリス）】

- 1 メカニカルブレーキノブを外し、内側に見えるボールベアリングに注油します。又、スプールを取り外し、反対側のボールベアリングにも同様に注油します。この際クラッチをOFFにしていただくとうまく行えます。（併に極少量、スプレーグリスの場合軽く一吹き程度で結構です。）
- 2 メカニカルブレーキノブの作動が渋くなったなら、内側のOリング部に極少量グリスを注油してください。



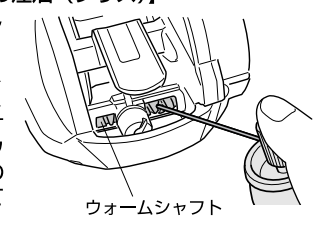
【スプールシャフトへの注油（グリス）】

- 1 取り外したスプールのシャフト両端（→の箇所）に、グリスを付けます。イラストの様に、一度、ビニールなどにグリスを吹き付けておくとうまくいきます。
※グリス切れの状態で長時間使うと、摩擦で焼きつけをおこす事があります。少量を毎回注油される事をお勧め致します。



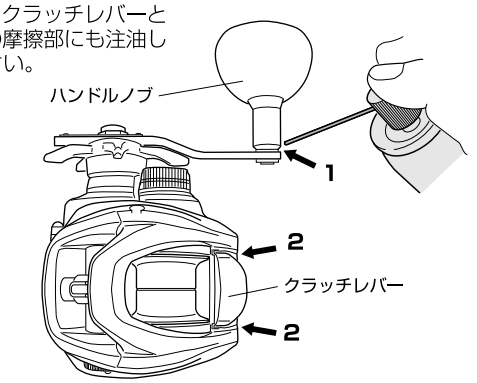
【ウォームシャフト部への注油（グリス）】

- 1 図の様にウォームシャフト部へ注油します。
※長時間ご使用になり、汚れが激しい場合は、一度オイルを吹き付け汚れを浮かしてからウエスで拭き取り、その後、グリスを注油してください。

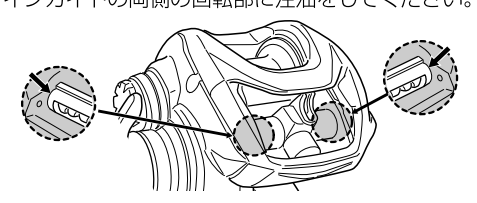


【ハンドルノブ、クラッチへの注油（グリス）】

- 1 図の様にハンドルノブへ注油します。
※グリス・オイルの付けすぎは逆に本来の性能を損なう可能性がございます。ご注意ください。
- 2 図の様にクラッチレバーと本体との摩擦部にも注油してください。



- 3 ラインガイドの両側の回転部に注油をしてください。



※水抜き穴への注油は絶対におやめください。
※ギア部等リールを分解してのお手入れは、内部構造が複雑なため、おやめください。